

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミ	チーム名	アパレル
タイトル	アパレル産業の現状と今後の考察		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	森誠志郎 辻葩きらら 高原一真 伊藤玄 藤川明大 田畑莉奈		
研究計画内容	<p>研究背景</p> <p>現在世界を混乱させているコロナウイルスによって、どの産業の状況（売り上げや需要など）が大きく変わったかを考えた時、アパレル産業は変わったのではないかと考えた。そこで私達はアパレル産業の現状をあらゆる視点から見て、今後どのように状況が変化していくのかを考察していく。そしてアパレル産業のこれからの在り方を考える。</p> <p>研究の内容</p> <p>低価格志向、景気低迷に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大が、アパレル業界に大きな影響を与えており、緊急事態宣言による外出自粛や営業時間の短縮は、実店舗から客足を遠のかせ、売上の減少や閉店を続出させた。実店舗での販売に縛られることなく、さまざまな販路拡大を進めることが急務と言える。現状、国内市場は縮小している。アフターコロナを見越し、積極的な海外展開を視野に入れる必要があり、国内では、ファッションにお金をかける消費者は減ったが、海外には、流行に敏感で、ファッションに対する購買意欲の高い消費者が多くおり、そもそも近年の日本のアパレル市場で、ブランド品など高額商品の売上を支えていたのは、中国人をはじめとした訪日外国人客のインバウンド需要であった。コロナ禍による観光客のストップは、アパレル業界にとって大きな痛手であり、アフターコロナに向けて、インバウンド需要の再開に期待するだけでなく、海外向け EC サイトの開設、海外での実店舗の設置など積極的な海外展開を進めるべきだと考える。日本国外の市場をターゲットにしたマーケティング施策の重要性が高まっている。例えば世界のどこにいてもオンラインサイトでの購入や、Instagram での宣伝である。加えて、あらゆる文化で自然環境においての意識の高まり、つまりサステイナブルを意識した視点が生産において重要になっている。</p> <p>以上を踏まえて、それぞれのブランドとしての個性を確立していくことが大切だと考えた。</p> <p>期待されること</p> <p>私たちの生活に当たり前にある洋服についての現状や今後を考える機会となり、そして現在の自然環境についての考えるきっかけにもなる。</p>		